



▲渡邊龍聖初代校長  
第1回小樽高商卒業アルバム（大正3年）

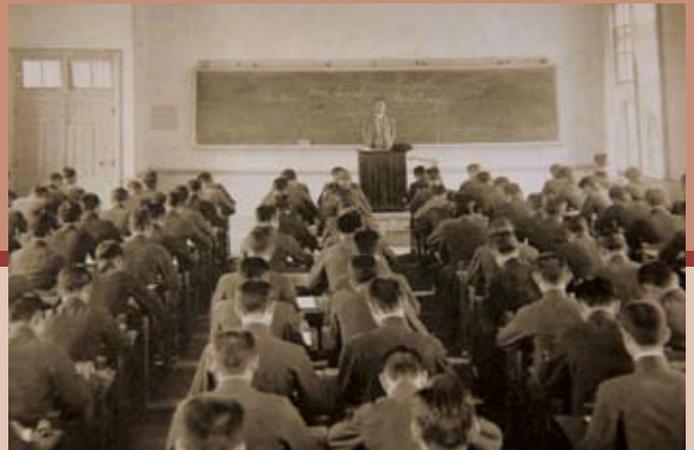
# 小樽商科大学 広報誌 Hermes courrier

ヘルメス・クーリエ  
2010. July

# No. 26

特集：諸君を紳士として遇す ……1

—小樽高商の初代校長・渡邊龍聖—



▲授業風景  
第7回小樽高商卒業アルバム（大正9年）

- 百周年コラム6 …………… 3  
 創立100周年記念事業
  - 商大の「花」と「樹木」が決定しました
  - 学生寮「輝光寮」の建設が進んでいます
  - 史料展示室が新装オープンします
  - 合宿研修施設「逍遙荘」が完成しました
- TOPICS …………… 5
  - 商大応援団の復活なる！ 13年ぶりの対面式、VS 北大応援団
  - 今年も盛り上がりました 新入生ルーキーズキャンプ
- 商大生頑張ってます！Part 5 ……………6
  - [翔楽舞] さくら祭りを演出/セミファイナル8位！YOSAKOIソーラン祭り
  - [COLPEN] 歴史的建造物「(旧)岡川薬局」にカフェ開店
- 第1期中期目標・計画期間を終えて ……………7
- INFORMATION



# 諸君を 紳士として遇す

—小樽高商の初代校長・渡邊龍聖—

倉田 稔 (小樽商科大学名誉教授)



いよいよ本学は、来年に創立百年を迎えます。この時期をとらえ、創立以来語り継がれてきた渡邊龍聖初代校長の言葉「諸君を紳士として遇す」について、倉田稔本学名誉教授に寄稿願いました。倉田先生は、この言葉をタイトルとする新著の中で、明治末期から大正初期の小樽高等商業学校と渡邊校長の史実やエピソードを書いておられます。

また、この刊行に併せて去る6月に開かれた市民講座「ゆめぽーとライブ」では、およそ100年前の出来事をめぐって、倉田先生と聴講者の熱い質疑が交わされました。

## 小樽以前

小樽高等商業学校(小樽高商)の初代校長は、渡邊龍聖先生である。龍聖は、りゅうせいとされていたが、りょうせいである。東京専門学校英語科本科で学んでから、東京帝国大学に入学し、アメリカに留学した。主に倫理学と教育学を学び、コーネル大学で、ドクター・オブ・フィロソフィーを取得して帰国した。

日本では、明治28年、東京の高等師範学校で講師になり、その後、教授に昇進し、東京音楽学校の校長にもなった。音楽学校では瀧廉太郎の天分をしっかりと知り抜き、卒業後も講師として学校に留めた。

明治35年には、文部省の内命により清国(中国)の華北の教育事情を視察した。その際、袁世凱に教育顧問を要請され、7年間、清国で任に当たった。帰国後、文部省はベルリン大学への留学をもって長年の貢献に報いた。

ベルリン留学中の明治40年、文部次官より一通の手紙を受け取った。小樽高商の校長をやらないか、という手紙だった。

## 小樽の町と小樽高商創立

明治に入ってから官製都市として誕生した小樽は、明治20年代には、商港としての地位を確立した。幌内(現三笠市)の石炭が、幌内・札幌・小樽を通る鉄道で運ばれ、ここから本州に移出されていったのである。これは日本で3番目に早く、北海道で最も早い鉄道路線であった(明治13年の開通)。小樽は商人の町であり、北海道の商圏を函館と二分していたが、その後、樺太貿易の独占支配で函館をしのぐようになる。

一方、富国を急ぐ政府は、国民に高度な商業を学ばせるため、全国に高等商業学校を作らねばならなかった。当時、高等商業学校は4つ建てられていた。東京、神戸、山口、長崎である。日露戦争が終わると、国際貿易振興のため、第五高商を建てることになった。

誘致には多くの町が立候補したが、それまでの4校は東京より西にあるものばかりなので、今度は東京よりも東(=北)に創ることになった。初めは函館が有力で、仙台も名乗りをあげていた。だが、明治40年、第五高商は、小樽に建てることに決まった。小樽の大商人がそれぞれ土地を寄付し、小樽区会が建築費37万円のうち20万円を出すことにしたからである(当時の小樽の年間予算はおおよそ30万円)。



倉田 稔 (くらた みのる)

昭和39年3月	慶應義塾大学経済学部卒業
44年3月	“ 大学院経済学研究科
	博士課程修了
43年 3月	日本社会事業大学助手
49年10月	小樽商科大学商学部助教授
56年10月	“ 教授
平成 8年~12年	“ 附属図書館長
17年 3月	“ 特任教授
19年 3月	退 職
19年 4月	小樽商科大学名誉教授の称号授与
21年 4月	札幌学院大学経済学部特任教授

## 渡邊校長の赴任と開校

新しい高商の初代校長には、東京高等師範の教授で、東京音楽学校の校長をしたことのある渡邊龍聖に白羽の矢が立った。彼はこの時、ベルリン大学にいたが、留学期間を切り上げて引き受けた。ヨーロッパ各地の商業学校を見学・調査した結果、商業教育が非常に重要な国家的任務を担うものであると確信したからである。

小樽高商は、明治44年4月から授業を開始することが公示されていた。渡邊はその直前の2月に小樽に来て、開校の準備をした。だが、高商では、欠くことのできない教師の選定が出来ていなかった。渡邊は首席採用主義で、実力のある教師を採用していった。

さらに困ったことに、校舎しかできていなかった。急な地獄坂を登って山腹の校舎に辿りついても休息のための椅子ひとつなかった。入学試験には椅子も机も、区役所などから借り集めるしかなかった。また、教授、学生(当時の用語では生徒)の起居する家もなく、校長や教授の多くは近くの寺に合宿し、学生は雨天体操場を仮宿舎とした。

かくして、小樽高商は、新入生72名を迎え、予定に1ヶ月遅れの5月5日に開校した。

## 諸君を紳士として遇す

渡邊は、自分は商業学の専門ではないと言っていたが、教育学が副専門であるから、校長としては適格である。それに、長年中国で教育顧問をし、ヨーロッパを広く知っているし、決定的なことは、アメリカで長く留学し、新しい学問を学び、英語は堪能である。当時の日本人としてはほとんどいない先進的人物であった。

彼は、新しい商業学を日本に植えようとした。外国に対しても日本の商業は遅れている。特に、商業の精神と技術で遅れを取っている。これでは日本は立国できない。また日本国内でも商業と商業学が軽視されている。彼は、商業学に市民権を与えようと思った。長い間、日本は士農工商の国であって、商人

はこれら諸階級の最下位に置かれていたからである。

だから彼は、高商生に期待したのである。それが、「我が輩は諸君を紳士として遇す」という言葉となった。渡邊の言を伝える『乾甫式辞集』にはこうある(現代風にした)。

今日の商人は、智識技能は勿論、その品格の上でも、国民の上位を占むべき資格を備えねばならない。要するに紳士中の紳士、智識徳望共に紳士中の紳士でなければならない。この故にかく重大な任務を担う商業家たらんとする本校生徒は、在学中常に紳士の資格を具備せねばならないが故に、少年紳士を以て遇するを主義とするのである。

当時は男子学生だけで、現在では女子学生が在学しているから、「紳士・淑女」と言うべきであろうが。

## 実学、教養、外国語

渡邊校長は、実学を教えようとした。彼の言う実学というのは、福沢諭吉の実学と比べると、もっと具体的であった。実際に、会社、商社、銀行で使える商業技術のことである。授業科目には、定番の商業学、経済学、簿記、商法などと並んで、商品学や商業実践といった本校独特の科目を入れた。商品学で



▲校長室にて

## 年表

1862 (文久 2) 年 8月	渡邊龍聖生誕
1887 (明治20) 年 7月	渡邊 東京専門学校英語科卒業
〃 9月	渡邊 東京帝国大学入学
1892 (明治25) 年 6月	渡邊 ニューヨーク州コーネル大学からドクター・オブ・フィロソフィー取得
1894 (明治27) 年	日清戦争勃発
1895 (明治28) 年	渡邊 東京高等師範学校講師
1899 (明治32) 年	渡邊 東京音楽学校初代校長
1902 (明治35) 年	渡邊 清国政府直隷総督事務顧問
1904 (明治37) 年	日露戦争勃発
1905 (明治38) 年	小樽区会、第五高等商業学校誘致にのりだす
1907 (明治40) 年	第五高等商業学校の小樽設置が決定
1910 (明治43) 年	渡邊 ベルリン大学に留学
〃 3月	小樽高等商業学校設立
1911 (明治44) 年 1月	渡邊 初代校長に任ぜられる
〃 5月	授業開始
1920 (大正 9) 年 2月	企業実践科実習工場落成

1921 (大正10) 年10月	開校10周年記念行事
〃 11月	渡邊 退任
〃 11月	渡邊 名古屋高等商業学校校長に任ぜられる
〃 12月	渡邊 小樽高等商業学校名誉教授



は実際に商品を作らせた。鯨にしんの油から作る「高商石鹸」は評判もよく、休暇中に売り回って学費の足しにする学生もいた。商業実践では実際に、為替取引所、手形交換所、銀行などの模擬施設を造って、学生に実習させた。立派な赤レンガ建ての商品館には、いろいろの商品の見本、主な貿易国の本物の通貨が陳列してあった。

他方で、渡邊は、一見全く反対のことをしている。実学のみ狭い学問を嫌い、広い教養をつけるべく、教養科目に力を入れたのである。世に「高商アカデミズム」という言葉があるが、それは旧制高校的な教育、ソロバンなどを超えて教育するという意味で、実際、簿記学、会計学、法律学などよりも、外国文学や、経済思想史、哲学といった科目のほうが、学生には人気だった。伊藤聖や小林多喜二を生み出したのは、そういった商業学校らしからぬ校風である。

それと並んで特徴的なことは、語学教育であった。外国人から外国語を直接教えてもらうという方針である。商品学でさえ、ドイツ人が英語で行なったほどである。英、独、米、仏、支から苦勞して招いた講師陣は、国際的な実業人を養成するという高商の特色からいって、大きな強みとなった。また、彼らの指導する年1回の外国語劇は、「小樽高商の華」とも呼ばれ、小樽市民の人気を博した。こうして小樽高商の学生は、伝統的に外国語・英語に強くなった。

渡邊は、初代校長であるにとどまらない。彼は小樽高商の方針と進むべき道を造ったのである。「諸君を紳士として遇す」に込められた渡邊の期待は、現在の小樽商科大学に確実に引き継がれており、学則の第一条には「品格ある人材の育成」が謳われている。



# 創立100周年記念事業

## ●創立百周年記念イベント

- 講演会／史料展示室披露／祝賀ビアパーティー
- 日 時：平成22年8月9日(月)
- 会 場：小樽商科大学

## ●小樽商科大学シニアアカデミー

- 日 時：平成22年8月31日(火)～9月3日(金)
- 会 場：小樽商科大学・小樽市内の社会教育施設など
- ※シニアの皆さまを対象にした、小樽の歴史・文化・観光を学ぶ体験型生涯学習プログラム

## ■創立百周年記念式典・懇親会

- 日 時：平成23年7月8日(金)
- 式典・懇親会：グランドパーク小樽

## ■緑丘100周年祭

- 日 時：平成23年7月9日(土)、10日(日)
- 会 場：小樽商科大学構内
- 7月 9日(土) 卒業生・企業等の皆さまとのイベント
  - (1) 記念祝賀会
  - (2) ホームカミング(模擬講義・合同部活など)
  - (3) 百周年企画／大園遊会／花火大会
- 7月10日(日) 市民・企業等の皆さまとのイベント
  - (1) 百周年企画／大園遊会

## ■グリークラブ演奏会(本学グリークラブOBによる演奏会)

- 日 時：平成23年7月18日(月)〈海の日〉
- 会 場：小樽市民会館

## ■国際シンポジウム

- 日 時：平成23年8月26日(金)・27日(土)
- 会 場：小樽商科大学及び札幌

## ■音楽祭(市民の皆さまとベートーベンの第九などを楽しむ音楽祭)

- 日 時：平成23年10月10日(月)〈体育の日〉
- 会 場：小樽市民会館

## ■学生寮(輝光寮)の建設

- 竣 工：平成23年2月

## ■創立100周年記念誌(大学史) 発行

## 商大の「花」と「樹木」が決定しました

本誌前々回の第24号でお知らせした、商大の花と樹木がこの度決定しました。創立百周年に向けて、本学は花壇の整備や散策路の設置等、キャンパス美化事業に取り組んでいます。花と樹木の選定はその一環で、商大のシンボルに相応しい植物を選んで、学生、教職員、卒業生、市民に親んでもらおうというものです。学内や卒業生にアンケートを取り、候補の中から人気の高かったエゾエンゴサク、エゾヤマザクラがそれぞれ選ばれました。

エゾエンゴサク(蝦夷延胡索)は、雪解け後、大学会館横の古おてぼち発川沿いの斜面一杯に青紫の可憐な花を咲かせます。エゾヤマザクラ(蝦夷山桜)は、ソメイヨシノと共にキャンパスの春を彩り、市内でも桜の名所として知られています。



正門横のエゾエンゴサク



図書館前のエゾヤマザクラ

## ゆめぼーとライブ 第5弾 (附属図書館主催イベント)

### 小樽高商初代校長 渡邊龍聖を語る



6月3日、駅前プラザ「ゆめぼーと」において講演する倉田稔学名誉教授

## 本の紹介

### 諸君を紳士として遇す

小樽高等商業学校と渡邊龍聖

倉田 稔 著

小樽商科大学出版会 2010年  
小樽商科大学創立100周年記念出版



小樽商科大学は、2011（平成23）年創立百周年を迎えます。この記念すべき年を皆様と共に祝おうと、学生・教職員・卒業生が様々な事業を企画しています。この機会に是非商大に足を運んでいただき、記念事業にご参加下さい。

## 学生寮「輝光寮」の建設が進んでいます

創立百周年記念事業の一環として計画された学生寮の新営工事が着々と進んでいます。本学としては実に27年ぶりに復活する学生寮で、平成23年2月に竣工し、4月から入寮を開始する予定です。

新学生寮は、本学の謳い文句「北に一星あり、小なれどその輝光強し」から「輝光寮」と命名され、また5階建ての各階には、数多くの商大生を育てた歴代の寮から「北斗」「正気」「文行」「玉の井」「智明」の名称が充てられました。かつてのように日本全土から、そして全世界から気概のある学生が集まり、互いに切磋琢磨して、24時間活気にあふれたキャンパスとなることが大いに期待されます。



▲完成予定図



▲▶オープン準備中の史料展示室

## 史料展示室が新装オープンします

附属図書館3階に移転することになった「史料展示室」の工事がほぼ完成し、8月9日にリニューアル・オープンすることになりました。1年後に迫った百周年のイベントとして、来賓や市民の方々をお招きし、オープニングセレモニーや見学会を行います。

新しい展示室は以前の倍以上の広さがあり、図書館開館時間であれば誰でも自由に見学できます。旧校舎のジオラマや卒業証書第一号、小林多喜二や伊藤整の著作など、商大百年の歴史を物語る貴重な展示物を取り揃え、史料閲覧室や休憩コーナーも用意しておりますので是非ご来室下さい。

## 合宿研修施設「逍遙荘」が完成しました

建替え工事を行っていた合宿研修施設が完成し、サークルやゼミ活動等に利用されています。名称は、校歌と共に愛唱されている『若人逍遙の歌』から、「逍遙荘」と命名されました。

これまでの施設は昭和49年に建築され、主にサークルの合宿に利用されてきましたが、老朽化やトイレ・シャワーの男女共同使用等で、学生に不便を強いていました。創立百周年を機に、綺麗で便利な施設に生まれ変わり、学生だけではなく卒業生の利用も可能となりました。

また、逍遙荘に隣接する敷地には30名程度は余裕の「東屋」が建てられ、学生や教職員の花見やジンギスカン等で大いに賑わっています。



▲合宿研修施設「逍遙荘」



◀東屋



▲旧本校舎らせん階段

## 創立百周年記念 募金のお願い

創立百周年記念事業を推進するため、本学は皆様に、その趣旨へご賛同いただくとともに、ご支援ご協力を賜りますよう「小樽商科大学創立百周年記念募金」をお願いしております。その目的は、①新学生寮の建設、②教育研究振興基金（仮称）の創設、③百年史編纂、④記念式典・記念講演・国際シンポジウムの開催、⑤学生企画による記念事業、⑥キャンパス美化等の環境整備事業となります。詳しくは、創立百周年記念事業推進室にお問い合わせ下さい。また、「募金趣意書」や本学HP内の専用ページ等も是非ご覧下さい。（<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/100th/kihu.htm>）

【創立百周年記念事業推進室】 〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号  
TEL 0134-27-5492 FAX 0134-27-5493 E-mail ouc100nen@office.otaru-uc.ac.jp



商大図書館学外開放のご案内

商大図書館 TEL 0134-27-5273  
開館時間【通常期間】/（月～金）8:45～22:00、（土）10:00～19:30、（日・祝）10:00～17:00

” 【休業期間】/（月～金）8:45～17:00、（土・日・祝）10:00～17:00

## 商大応援団の復活なる！ 13年ぶりの対面式、 vs 北大応援団

小樽商科大学応援団と北海道大学応援団とが北の雄を競い合う対面式が、7月4日、北海道大学構内で行われました。対面式は、今から90年ほど前、大正11年に始まったとされ、以来、小樽、札幌交互に場を移して毎年開催され、パンカラ姿で街中を練り歩く姿や、両団長が挑戦状と応戦状をがなり合う様は、長らく市民にも親しまれてきました。ところが、「北大の白豚」、「商大の山猿」というなじみのやりとりは、残念なことに本学応援団の団員不足により、しばらく途絶えていました。しかし、復活を願うOBの熱意とライバル北大の友情のおかげで、今春、11名の学生が応援団に入団し、13年ぶりの対面式にこぎつけました。

当日は、一般市民等約200人が見物に訪れ、エール交換や伝統の演舞、挑戦状・応戦状のやりとりや野次合戦に、笑いと歓声が飛び交いました。北大グラウンドで引き続き行われた硬式野球の対抗試合でも応援合戦は続き、球場は大いに盛り上がりました。茶髪の団員がいたり、長い歴史で初の女性団員が誕生するなど、長髪でぼろぼろの団服といった往時のイメージとは少し異なりますが、古き伝統を未来へと継ぐ頼もしい若人達です。

来たる平成23年は、小樽での開催が予定されており、地元にて凱旋した新生応援団の勇姿が、商大百周年に彩りを添えるものと思います。



▲挑戦状を読み上げる商大応援団団長



▲対面式会場へ向かう商大応援団



▲初の女性団員



▲グループワークの様子

今回のキャンプでは、この4月に新採用となった職員も「緑丘会による商大に対する新たな取り組みの提案」をテーマに発表を行いました。学生に交じって、有益な研修となりました。



## 今年も盛り上がりました 新入生ルーキーズキャンプ

5月15日(土)・16日(日)の2日間、積丹余別「クラッセの宿」において、新入生を対象としたキャリア教育宿泊研修(通称ルーキーズ・キャンプ)が行われました。このキャンプは、上級生や本学卒業生との交流を通して、大学での生活や学業の意味を考え、ひいては将来の職業に関する意識を高めることを目的としたもので、今年で5回目となります。

今回は、昨年の参加者を中心とする先輩学生が自ら企画・運営を行い、コミュニケーションゲーム、卒業生・社会人による講演会や座談会、グループに分かれてのディスカッション&プレゼンテーション等々、多彩なメニューでキャンプ全体を大いに盛り上げました。今年のグループ・ワークのテーマは、「商大を盛り上げるイベント」、「20年後の商大を考える」、「緑丘祭に地域の人を呼び込むには？」で、どのグループも熱心に取り組んでいました。

2日間の研修を通じて、参加した新入生61名と上級生23名はそれぞれに大きな達成感を得ることができました。特に一年生にとっては、教職員、先輩、卒業生をより身近に感じることができ、高校の勉強から大学の学問への良い橋渡しになったと思われます。

# 商大生頑張ってます! Part5

商大生は、キャンパスの外でもユニークな活動を行って頑張っています。今回は、商大生のグループ、「翔楽舞」と「COLPEN」の学生たちから、それぞれの最近の活動ぶりについて寄稿してもらいました。

## 翔楽舞 さくら祭りを演出

企業法学科2年 菊池 将彦

私たち「翔楽舞」はYOSAKOIソーラン祭りの商大チームですが、踊りだけでなく、いろんな事に挑戦しています。6月28～30日には、小樽市商店街のさくら祭りをお手伝いさせていただきました。イベントの企画・運営も任せていただき、祭りの4ヶ月くらい前から商店街の方々と協力して構想を練りに練ってきました。今年は『祭りだヨ! 全員集合、おたる運動会!』というテーマのもとに祭りを企画し、最終日の運動会本番には総勢150名近くの市民の方々に参加していただき、玉入れ、いろいろリレー、寿司アンルーレットといった競技を盛大に行いました。さらに念願だった小樽商店街でのYOSAKOIソーランパレードも実現し、私たちの作品をたくさんの方々に見ていただくことができました。

社会人の中に交じて議論をし、祭りを一から企画・運営するのはとても大変なことでしたが、それ以上に大きなやりがいと達成感を得ることができました。普通の大学生活ではまずできないことをたくさん経験することができ、今回のさくら祭りは一生の思い出となる宝物になりました。



前列右から3番目が菊池さん



## セミファイナル8位! YOSAKOIソーラン祭り

今年もYOSAKOIソーラン祭りに約130名で参加してきました。今年度作品の『祭火』は、小樽の壮大な「海」と力強く輝く「漁り火」をモチーフとし、小樽に数多くあるお祭りのような楽しい雰囲気を表現した作品です。その結果、300以上あるチームの中でセミファイナル8位(総合19位)、携帯人気投票10位という成績を残すことができました。たくさんの方々への感謝の気持ちと共に、今後も様々なイベントをこの『祭火』で盛り上げていきたいと思えます!

## COLPEN 歴史的建造物「(旧)岡川薬局」にカフェ開店

企業法学科3年 板垣 詠美

「COLPEN」は(旧)岡川薬局内の飲食スペースCafeWhiteで、商大生が運営しているコミュニティ・カフェです。(旧)岡川薬局は築80年の小樽市指定の歴史的建造物で、現在はN合同会社が「地域の縁側」というコンセプトのもとに、ゲストハウス、レンタルスペース、そしてカフェとして活用しています。カフェは同じ場所で違う店が、曜日・時間毎に入れ替わりで営業するという形式で、COLPENは木曜日と日曜日に出店しています。詳しくは(旧)岡川薬局ブログ(<http://ameblo.jp/re-okagawapharmacy/>)をご覧ください。

私たちがコミュニティ・カフェを始めたのは、学生や社会人、観光客、地域のご老人、



左が板垣さん

子供たちなど、様々な人たちが交流でき、良い出会いや学びを得られるような場所を小樽に作りたいと思ったからです。全く経営の経験も知識もなく、料理が特別得意だったわけでもない私たちですが、たくさんの方々からサポートを頂きながら、楽しく頑張っています。今後はイベントなども開催していきたいと考えていますので、是非一度遊びに来てください。(メンバーも募集中です☆)



店名はcolor pencil (色鉛筆) より

■住所/小樽市若松1-7-7 ■営業時間/木:18:00~22:00 日:10:30~16:00



商大グッズ:大学生協にて好評発売中!!  
商大ラーメン、純米吟醸酒「小樽緑丘」、酒饅頭「商大饅頭」、商大くんストラップ、名刺入れ、エコバック、キーケース、シャープペンシル、ボールペン、オリジナルタオル、コインケース等

## 第1期中期目標・計画期間を終えて

国立大学法人小樽商科大学長 山本 眞樹夫



本年度（平成22年度）から、国立大学法人の第2期中期目標・計画期間（6年間）が始まりました。現在、平成16年度から始まった第1期の実績について、財務状況、教育内容、国際交流、社会貢献等々、国による評価を受けているところです。

本学の第1期中期目標・計画の柱は、きわめて単純化していえば大学院の充実でした。大学が他の教育研究機関と違うところは学位を授与できることです。これまで本学では、大学卒業者に学士号を、大学院前期課程修了者に修士号を授与してきましたが、平成16年、アントレプレナーシップ専攻を新たに設置しました。これは東北以北初めての本格的な専門職大学院（ビジネス・スクール）で、拠点となる札幌サテライトも札幌駅前に移転しました。次いで平成19年には、2年間の経営管理専攻修士課程を、前・後期計5年の区分制博士課程現代商学専攻に改組しまし

た。これらによって、本学は学士、修士、博士及び専門職修士の、わが国の学位制度で認められる全ての学位を授与できる大学となりました。

商学部だけの単科大学ではありますが、名実ともにユニバーシティ（総合大学）になったと考えています。

第2期は、学部教育（学士課程）の充実を中期目標・計画の柱としています。本学のモットーである「実学、語学及び品格」を兼ね備え、行動力ある学生を育成するためのカリキュラムを充実させ、澆刺とした学園生活を送り人格を陶冶するために必要な環境整備等を検討し実現していきたいと考えています。創立百周年記念事業でもある学生寮の再興、合宿研修施設の改築等も、学部教育の充実という目標の実現に大きな役割を果たしてくれるはずで

## INFORMATION

### 公開授業（後期科目）のご案内

夜間主コースの授業を学生と一緒に受講することができます。今年度後期科目の公開授業履修生を下記のとおり募集いたします。

- 募集期間：10月1日（金）から10月15日（金）（土・日を除く）  
申込受付は先着順とし、定員になり次第締め切ります。
- 6時限は17時45分～19時15分、7時限は19時25分～20時55分
- 受講料は1科目9,200円
- 公開科目等のお問い合わせ：学務課学部教務係 TEL 0134-27-5244

### 平成22年度後期行事予定

10月 1日	後期授業開始
12月23日～1月10日	冬季休業
1月 15日～ 16日	大学入試センター試験
2月 9日～ 18日	後期定期試験

【小樽雪あかりの路】にも参加予定です

2月25日	入学試験
3月 18日	学位記授与式

### 国立大学法人小樽商科大学の 役職員の給与水準の公表について

国立大学法人の役職員報酬及び職員の給与水準については、毎年度公表することになっており、本学においても平成21年度の「国立大学法人小樽商科大学の役職員の給与水準」を下記ホームページで公表しております。

URL <http://www.otaru-uc.ac.jp/hojin/kyuyosuijun/kyuyosuijun2009.pdf>

【問い合わせ先】小樽商科大学総務課人事係  
TEL 0134-27-5208

学生や先生の活動、イベント、学内の風景等を  
ブログで毎日好評更新中！



<http://d.hatena.ne.jp/shoudai-kun/>

### 編集後記

今号の特集は小樽高商の初代校長を長く勤めた渡邊龍聖です。帝国大学を中心に国家官僚の輩出が重んじられた時代において、商業や実学重視をかかげ奮闘した人物です。商大百年の原点がそこにありました。（よ）

編集スタッフ 尾形弘人、山本賢司、金 鎔基、中村 史

【ご意見・ご要望のお願い】

広報委員会では、読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より良い広報誌を作成する所存です。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構です。下記にお寄せください。

E-mail [kouhou@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:kouhou@office.otaru-uc.ac.jp)  
FAX 0134-27-5213

<http://www.otaru-uc.ac.jp>

## “おたる潮まつり”2連覇！

7月23日（金）から25日（日）まで開催された第44回おたる潮まつりに商大が参加しました。メインイベントの「潮ねりこみ」には、山本学長を先頭に学生、留学生、教職員が「潮音頭」に合せて町中から港までおよそ1.5キロを踊り歩きました。今年は復活した応援団が商大チームを先導し、スピーカーから流れる「ドンドコザブン」の歌声の中、総勢110名を超える大所帯は元気あふれる踊りを披露し、見事昨年に続く連続優勝の快挙を成し遂げました。

また、祭りの期間中、第三埠頭のメイン会場に商大百周年PRブースを設け、本学の歴史をパネルで展示するとともに、商大グッズを販売して、市民の皆様や観光客に広く商大をアピールしました。



▲先頭の学長



◀踊る留学生



▲百周年PRブース

